

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年3月31日

札幌市立本町小学校

1 本年度の重点目標

ハートフル本町 <いい顔 いい声 いい動き> ひとみ かがやく 本町の子

2 本年度の経営方針

一人一人が認められ、生き生きと活動し、温かな学び合いができる学校づくりに努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	分かる授業をめざして、授業形態や指導方法を工夫している。	A	・児童アンケートで「授業がわかる」と答えた児童が、昨年度に引き続き、約8割以上に上り、おおむねよい評価が得られた。今後も校内研究での研究授業などを授業改善の機会として、日常における「分かる・できる」授業を積み重ねていく。	A	A
	進んで考えたり発表したりできるように学習指導を進めている。	A	・授業の中で課題に対する自分の考えをもたせ主体的に学ぶようはたらきかけてきた。どの子どもも意見をもつことができるよう課題を工夫し、考えを伝え合う交流の場が、自分の学びを深める機会になると実感できるよう継続して取り組んでいく。	A	A
	宿題や家庭学習をすることが定着するよう指導・工夫している。	A	・児童アンケートで約8割の子どもが自ら取り組んでいると答えている。宿題の提出率も高く、自ら課題を決めて取り組む課程学習の取組も定着してきている。学習の定着と家庭での学習の内容の質的向上を図ることができるよう今後も『自学のすすめ』の活用を促していく。	A	B
学校関係者評価 委員による意見		・日頃からの授業改善や子どもたちの主体性、自ら学ぶ取組に全力で努力されていることを感じる。 ・学力保障のために、宿題や家庭学習をどのように活用していくか検討の必要性がある。 ・地域の老人クラブ主催の「百人一首」や「川柳教室」に参加する児童が見られ、教科学習の補完となるような体験の様子がある。これらが学習意欲の向上に結び付くことを期待したい。			
生活指導	子どもが困ったときに話を聞いたり、相談にのったりしている。	A	・児童アンケートの結果からは、約80%の児童が困った時に相談することができていると答えている。今後も一人一人の児童の様子をとらえ情報を職員で共有しながら、児童が安心して過ごせるよう寄り添った指導に努める。	A	A
	子どもに状況に応じた望ましい言葉遣いを指導している。	B	・これまで、学年・学級内にとどまらず、異学年での交流も含め、互いを認め合い、高まり合う行事や児童会の取組を行ってきた。重ねてよりよい言葉を通してかわりあうことにも目を向けていけるよう指導をしていく。	A	A

	子どもにしっかり挨拶したり、決まりを守ったりした生活をするように指導している。	B	・児童委員会の提案で、年間を通してあいさつ運動等を継続的に取り組んできた。取組を通して、「どんな時にも」「どんな場面でも」という意識をもたせるところまでは至っておらず、指導の工夫が必要である。	B	B
学校関係者評価 委員による意見		・子どもたちがこれからの社会で生きていくために心遣い・言葉・挨拶など最低限のマナーをつける工夫。 ・是非、学校内だけでなく、学校外にも視野を広げ、「どんな場面でも」という意識啓発を図っていただければと思います。 ・あいさつ運動の効果の波及と思われるが、地域社会での交流の中で、元気に挨拶する生活態度が身に付きつつある児童が見られるようになってきている。			
心の指導	周りの人を思いやり、親切にする心が育っている。	A	・「ハートフル本町」を合言葉に、あたたかい心が通い合うぬくもりあふれる学校を目指して取り組んできたカード交流や、異学年交流の成果が児童の姿から見えている。引き続き、思いやる気持ちを大切にした教育活動に努める。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		・できれば家庭をまきこんだ対応が必要である。 ・兄弟や隣同士が、そろって登校する姿が見られ、安全な行動に気を付けるという心構えができていように見られる。			
行事・特別活動	行事や係活動、クラブ活動、委員会活動に意欲的に取り組んでいる	B	・4年生以上の高学年が力を合わせて取り組んだり、交流によって仲を深めたりすることができた。6年生が手本を示し、取組の道筋を提示するなど、良き伝統が築かれつつある。児童の主体性が育つような活動を加えていき、より一層、本校らしい活動になるよう指導を工夫していく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		・全般的に意欲的に取り組んでいるのでより積極性をもたせる工夫が必要なのではないか。 ・校区の公園で行う清掃活動は、地域における子どもたちの先行経験とも見られ、町内会、子ども会の活動へと引き継がれているように見受けられる。			
保護者・地域との連携	お便りや家庭への連絡などの意思疎通を適切に行っている。	A	・今年度もこれまでと同様に、保護者、教職員ともに、おおむねよいという評価が得られた。今後も保護者・地域の皆様に本校の教育活動について御理解や御協力をいただけるよう「お便り」「学校教育説明会」「ホームページ」「安心・安全メール」などで十分な情報が発信されるように努める。	A	A
	子どものことについての問い合わせや相談に適切に応じている。	A	・今年度も、保護者からおおむねよいとされる高い評価を得ることができた。今後も一人一人の児童を大切にしていることが保護者に伝わるよう丁寧な指導を心がけ、連携を密にし、保護者に安心してお子さんを通わせることができるよう努める。また、教職員全体で全児童を育てていくという意識をもちながら、子どもの情報は共有し、共通理解できるように心がけていく。	B	B
学校関係者評価 委員による意見		・「お便り」「学校教育説明会」などは、今まで以上に絵や動画などを多用にしてはどうか。 ・DVや貧困など、困難を抱えた児童へのかかわりにつきまして、「見守り」が「見過ごし」とならないよう、引き続き密に連携を図っていきたいと考えます。 ・校区の地区センターで開催する「自由研究作品展」は、学校での活動の一端を紹介する催しとなっている。今後の継続が望まれる。			